

talk! talk! talk! モデル・竹下玲奈さん



モデル 竹下玲奈さん

大人気モデルとして、ファッション誌からCMまで活躍されている竹下玲奈さん。明るく魅力的な笑顔で、男女問わずファンの多い。そんな竹下さんは、大好きな海や愛犬の撮影を、自由な発想で楽しんでいるという。写真の構図や加工など、味のある写真へのこだわりや魅力をうかがいました。

プロフィール

たけした・れな 1981年鹿児島県生まれ。

1997年に雑誌モデルとしてデビュー。雑誌、CMなど幅広い活動で人気に。

現在は『MORE』（集英社）、『sweet』（宝島社）、『GINGER』（幻冬舎）、『ar』（主婦と生活社）『non-no』（集英社）、『mina』（主婦の友社）など多くのファッション誌で活躍中。

2010年6月に写真集『KARTE』が発売される。

映画『パラダイスキス』（2011年春公開予定）にも出演するなど、活躍の幅を広げている。

Beginning 出会い

フィルムカメラで写す、こだわりの海と空の境界線

初めてのカメラを教えてください。

いちばん最初に手にしたカメラはレンズ付きフィルムカメラでした。そのあとは1年くらいインスタントカメラを持ち歩いていました。今から7~8年前のことですが、旅先には必ず持って行ってカシャカシャ撮りまくってましたね。すると写真の面白さにはまっただしてしまい、もっと楽しみたい、色んな被写体を撮りたいと思うようになったんです。そこで購入したのがフィルムカメラのニコンFM2です。

フィルムカメラはインスタントカメラと異なって難しかったと思いますが、どんな撮影に使ってらっしゃったのですか？

使い方はインスタントカメラと同じで、旅行に持っていくことが多かったですね。被写体は旅先の風景とか、一緒に行った友だちとか、現地の人でした。当時は旅行に行くときに、インスタントとFM2をセットで持って行ってました。

結構な荷物になってしまうと思いますが・・・。

本当に重かったし、かさばるんですよ。飛行機のセキュリティチェックで、フィルムが感光しないように保護する袋も買って使っていたんですけど、X線を通さない高機能なものだったので、袋だけでも重いんですよ。「見た目だけはプロのフォトグラファーみたいだね」と言われてました（笑）。

かなり本格的ですね。フィルムカメラにはどんな魅力がありますか？

海を撮るのが大好きなんですけど、フィルムカメラで撮ると、海と空の境界線に味があって、他のカメラで撮ったものとまったく味の違いが違います。自分の味とか、自分のスタイルを写真に出したくて、海と空の境界線にいちばんこだわっています。自分の味というスタイルが出しやすいという意味で、フィルムカメラはとても魅力的なんです。

例えば、同じ海でも切り取り方で全然違う風に見えます。地平線を半分写すのか、ギリギリまで海を写して空を少しだけ入れるのかとか、それだけでまったく異なった印象になりますよね。私がよく撮るのは低い位置に水平線があって、空が広がっているという構図。気がついたら同じような写真でいっぱいになってました（笑）。

味があって、私のスタイルをそのまま出せるから、たくさん「私らしい」写真が撮れる。そこにフィルムカメラの魅力を感じます。今って、とっても機械的な時代ですよね。そういう時代の中で、フィルムカメラみたいに昔からあるものに味があって、どうすれば自分のスタイルが出せるのか、その方法を知っていると楽しめるんですよ。

Pleasure 楽しみ

臨場感や動きのある写真が撮れるデジカメにも魅力を感じる

現在はどのようなカメラで撮影を楽しんでいますか？

最近はデジカメで撮ることが多いんですけど、レトロな雰囲気や暖かな味のある写真や、遊びがある写真というか、インスタントカメラっぽい仕上がりの写真を撮れたらいいなと思っています。パキッとしたメリハリのある写真もいいんですが、微妙にボケていたり、セピア調の色合いがすごく好きなので、ブログにアップする写真はほとんど加工して、あえて古い写真の感じを出しているんです。毎度加工するのって結構面倒なんですけどね（笑）！でも、その手間をかけるのが楽しいんですよ。

デジカメのメリットは、手軽に持ち歩けるから気軽に撮れるっていうことですね。旅行とか、友だちと遊びに行ったりするときに持って行って、気の向くままに撮れる。

デジカメは色々な撮り方ができますよね。デジカメを使い始めたきっかけは？

正直に言うと、以前はあまりデジカメが好きじゃなかったんです。というか、そのよさがあまりわかっていなかったのかな？すごいちゃいボディの中に、カメラのあらゆる機能が凝縮されているっていうことに違和感があったんですよ。それまで、写真を撮るっていうのは、いろいろ手間がかかるものだと思っていたので、そんなに手軽でいいの？って感じていたんです。でも仕事で写真を撮ることになったとき、数枚使うだけのために、FM2でいっぱい撮影しちゃって……。当然、現像することになるわけで、その度の手間やら費用やら、たいへんなことになってしまったんです（笑）。そんなときにデジカメを勧められました。だから

なりゆきでスタートしたんですけど、今はデジカメも面白いなーって思い始めてるんですよ。

デジカメはどんなところが面白いですか？

友だちと遊んでいるときに、バシャバシャって撮った写真は、臨場感があって面白いんですよ。構えてない表情や臨場感は、フィルムにはないと思うんです。さっきの話じゃないんですが、フィルムは現像代やプリント代のことを考えると遊びながらバシャバシャ撮れませんよね（笑）。プレちゃってて、あとで見たら何が撮りたかったか全然わからなくて、がっかりなんてこともありました。デジカメなら撮ったその場ですぐ見られるし、写真にある臨場感をみんなで共有できますよね。連写をはじめ、機能も豊富で簡単に使えるから、いろんな遊び方ができると思うんです。デジカメは動いた世界がそのまま出る面白さがあるんですよ。デジカメでも楽しく撮れることがわかったので、今はそれに自分が適応していつているんです。その変化を楽しめたら、カメラがもっと面白くなるんだと思うとワクワクします。ブログも最近始めたんですが、今まではやらす嫌いだったんです。ブログも、デジカメも、始めてみたら面白い。もったいなかったですね（笑）。

犬を飼ってらっしゃるとのことですが、ペットの写真は撮られますか？

犬を撮るときにはコツがあるんです。毛が多い犬は、上から撮るとあんまり可愛くならないので、目線よりちょっと下から撮ると、陰影がついてすっごく可愛い表情を撮れるんです。これ、自信あります（笑）！

ワンちゃんは、私のいうことを全部聞いてくれるわけじゃないので、こっちの都合でずーっと撮影しているのはできないですね。「表情作って！」っていつて作ってくれるわけじゃないので難しいんですけど、それだけにやりがいがある動物を撮るのは面白いんです。モノより変化があって、表情があるから、角度によっては全然違う風に見えるたりもしますからね。

フィルムカメラで犬を撮ったこともあるんですけど、動くからプレちゃってプレちゃって。やっぱり犬を撮るときはデジカメですね。動いたり走ってるときに何気なく撮っていても、いいなーって思える写真が何枚か絶対にある。うちの犬はフラッシュをたくと嫌がるんですけど、ファッション誌の撮影に参加することもあるので、撮影慣れしているのか、自然光で撮るときはご機嫌なんですよ。

お話を伺っていると、竹下さんは写真を撮られるチャンスが非常に多いようですが、モデルとしてのカメラへの思いを教えてください。

モデルの仕事のときは、レンズ越しに見られている自分はどういうふうに写っているんだろう、どんな形をしているんだろう、と考えながらいつもポーズをとっています。自分が撮影するときは、逆の立場になるわけですから色々考えられるんです。撮ってもらってばかりだと、一方的な状況に、どこかでぎっと飽きてしまうと思うんです。自分も写真を撮ることで、撮る側の気持ちや見え方が少しずつわかってきて、ちょっとだけ勉強になっています。



Photo's 作品紹介









Future これから

私にしか撮れない被写体の表情を引き出したい

これからどんな写真を撮っていききたいですか？

人を撮っていききたいですね。私はモデルとして、何十人というフォトグラファーさんに撮ってもらっているんですけど、どのフォトグラファーさんに対しても、毎回毎回顔が違ってはいます。そのたびに、違う私になっていて、その変化が面白いと思うんです。だから、私が撮る側になったときに、その面白さを撮る側で体感したい。私が撮ったとき、この人は、どんな顔をしてくれるんだろうって。他の人が撮ったその人の写真と、私が撮ったその人の写真は違う顔なんです。私にしか撮れない表情が見たいんです。

カメラを通して、私とその人との関係性があって、そこからは私とその人にしかできない写真が撮れるんですよ。もともとすごく仲が良かったら笑ってくれるって思うけど、タイミングとか関係性が悪かったりすると怒るかもしれない。でも、私はできるだけみんなが笑ってる写真を撮っていききたいなって思っているんです。撮影しているときも、笑ってほしいなって思いながら撮ってるんです。でも「笑って～」とかそういうリクエストはほとんどしません。それどころかかなり突然シャッターを押します。「撮るよ～」って構えても、その人の素敵な表情がなくなってしまったら勿体ないですよね。だからあえていきなり撮って、自然な部分を引き出したいんです。

これから挑戦したいことや力を入れていききたいことはありますか？

今、仕事がとても楽しくなっているので、「モデル」に力を入れていききたいですね。どんなお仕事もそうだと思うんですけど、モデルって極めたと感じるところがないと思うんです。だから一生がんばり続けたいです。その中で、例えば演技をすることが自分の中で必要だと思うときは挑戦したいし、インテリアが好きなので、その勉強をするために海外へ勉強しに行きたいと考えていることもあります。

インスタントカメラ、フィルムカメラ、デジタルカメラと色々なカメラを使ってきた竹下さんの思う、カメラの面白さを教えてください。

フィルムカメラは凄く難しく、フィルム1本分全部失敗とかもありますけど、その分いい写真が撮れると嬉しいし、達成感がたまらないですね。デジカメは撮ったあとの編集とか、加工ができるから面白い。それぞれに魅力的な部分があるから、どちらも楽しみたいですね。今欲しいなーと思うカメラは、編集機能がたくさんあって簡単なもの。撮ったあとに難しい編集操作をするんじゃないくて、「レトロ」とか「セビア」とかボタンがいくつもあって、それを押すと自分がやってほしい加工がパッとできちゃうようなものがあったら、もっと気軽に、私らしさを表現できて、楽しいと思うんです。

自分らしい写真を撮ってカメラを楽しむ竹下玲奈さん。これからも味のある、自分のスタイルを貫いてください。自由に楽しい写真を撮るを楽しみにしています！



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.